

水戸の弘道館と偕楽園



弘道館・正庁



弘道館・正席の間



偕楽園・好文亭



偕楽園・吐玉泉

水戸藩第九代藩主徳川斉昭(烈公)によって創設された弘道館と偕楽園。文武修業の場である弘道館に対し、偕楽園は修業の余暇に心身を休める一対の施設として構想されていました。今回は、この二つの施設を紹介します。

詳しくは

水戸の名君 徳川斉昭

弘道館と偕楽園の創始者である徳川斉昭(烈公)は、寛政十二(一八〇〇)年に第七代藩主治紀の三男として江戸の小石川藩邸に生まれ、三十歳で藩主に就任しました。

藩政改革の推進

藩主就任後すぐに藩政の改革に取り組み、俸約の徹底、軍政の改革、藩内総検地、弘道館と偕楽園の造成などを推進しました。しかし、弘化元(一八四四)年、改革の行き過ぎなどを理由に幕府から謹慎を命ぜられました。

再び藩政へ

斉昭の謹慎は半年後には解かれ、嘉永六(一八五三)年のペリー来航を機に斉昭は海防参与として幕政に参加、藩内においても那珂湊に反射炉を築造し大砲を鑄造するなど軍備の充実に力を注ぎました。

斉昭の逝去と桜田門外の変

井伊直弼が大老に就任し、日米修好通商条約に調印すると、直弼の断行に強く反対した斉昭や尊攘派の志士たちは、安政の大獄と呼ばれる弾圧などをうけ、安政六(一八五九)年斉昭は水戸城に永蟄居を命ぜられました。翌万延元(一八六〇)年三月、桜田門外の変。同年八月、斉昭は水戸城内で逝去。烈公と諡され、波乱の生涯を閉じました。



徳川斉昭
(財) 幕末と明治の博物館蔵

親鸞と

茨城・聖徳太子



聖徳太子立像 水戸・善重寺
茨城新聞社提供

親鸞は鎌倉仏教の一つ、浄土真宗の宗祖です。茨城県内の各地には、親鸞に関する伝承や足跡が多く残されています。それは、四十代から六十代の壮年期の二十一年間を茨城で過ごし、茨城を拠点に布教を進めたからです。その親鸞の師であったのが、浄土宗の開祖・法然で、親鸞は師・法然の教えを深め、浄土真宗を開きました。親鸞と法然を結び付けたのが、実は聖徳太子なのです。親鸞が京都の六角堂に百日参りをした時、九十五日目に「法然の許へ行け」と、聖徳太子の夢のお告げがありました。それがきっかけで、親鸞は法然と出会ったのです。今でも浄土真宗の多くの寺に聖徳太子像がまつられています。県立歴史館の特別展「親鸞」では、日本一美しいとされる写真の太子像が、どの角度からも見られるように展示されます。ぜひ、会場へお越しください。

県立歴史館 特別展 **親鸞-茨城滞在20年の軌跡-** 2/6(土)~3/22(月)

今号のページ
おでかおんをさるくさい。

「存じますか? いばらきの歴史」

学問の府 弘道館

弘道館は、天保十二（一八四一）年に建てられた水戸藩の学校でした。藩の学校なので、藩校といいました。当時はたくさん藩があり、そのほとんどの藩が藩校を建てましたが、弘道館はその中で最大の藩校でした。弘道館を建てた目的や教育方針を示した「弘道館記」のはじめには、「弘道とは何ぞ、人よく道を弘むるなり」と書かれており、意味は、「人の生きる道というものは、自然にあるものではなく、人が努力して広げていくものです」となります。このはじめの言葉から、弘道館という学校の名前がつけられました。



弘道館・正門

弘道館を学ぶ一問一答

???

○弘道館の大きさは？

規模は日本で約十七万八千平方メートルで、現在の水戸市立三の丸小学校、県三の丸庁舎、県立図書館まで広がるとても広い面積でした。

○どんなことを教えていたの？

弘道館は学問と武芸の両方とも大切と考え、学問を教える文館、武術を教える武館を建てました。文館では、儒教、礼儀、歴史、天文、数学、地学、和歌、音楽など。武館では剣術、槍術、柔術、兵法、馬術などを教えました。また、医学を教える医学館もあり、その幅広い内容は今の総合大学のようなものでした。

○どんな人たちが学んでいたの？

水戸藩の藩士とその子どもたちが学んでいました。入学年齢は十五歳ですが、それまでは城下の家塾で基礎を学び、その後、塾の先生から弘道館への入学の申し込みをしました。徳川幕府の最後の將軍徳川慶喜（斉昭の七男）も、十一歳までここで学びました。

民と偕に楽しむ 偕楽園

弘道館開設の翌年、天保十三（一八四二）年に開園した偕楽園は、弘道館での文武修練の緊張を緩める憩いの場所として造られました。

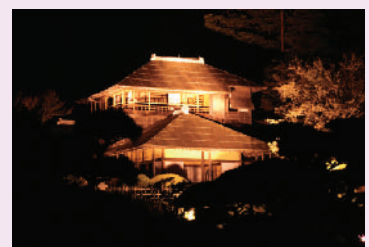
この偕楽園の名称は、『孟子』の「古の人は民と偕に楽しむ、故に能く楽しむなり」の一節からとられました。

また、偕楽園創設の由来が書かれた「偕楽園記」では、「是れ余が衆と楽しみを同じくするの意なり」と述べられています。

偕楽園の見どころ紹介

・好文亭

好文亭は、木造二層三階建ての好文亭本体と木造平屋造りの奥御殿から成り、建築



ライトアップされた好文亭

意匠などは斉昭が自ら定めたといわれています。「好文」とは梅の異名で中国の晋の武帝の「学問に親しめば梅が開き、学問を廃すれば開かなかった」という故事に基づいて名付けられました。

・吐玉泉

昔からわき水の多かったところで、眼病に効くといわれていました。また、そのわき水は、好文亭での茶の湯にも供されていました。

・偕楽園記の碑

好文亭の東側にある碑は自然石で、斉昭が自ら撰文した文字が精巧な古篆体という書体で刻まれています。学び始めかつ遊ぶという勉強と休養のバランスを常に心がけることが大切であることや、民と偕に楽しむための場として「偕楽園」と命名したことなどが示されています。

弘道館と偕楽園については

①県公園街路課
☎029(30)4656
☎029(30)4669

ハッスル黄門の全国漫遊記

in 福岡



漫遊の旅を続ける黄門様は、とうとう九州に上陸しました。訪問先の福岡では、地元テレビ番組に出演したり、マスコミキャラクター・フータ君が暮らし「福岡タワー」を訪れたり、元氣いっぱい福岡の地を走り回りました。

これまで、つくばサイエンスアワーを通じて本県を訪れてくれた九州の子どもたちは一万六千人にもなります。今回も「茨城のイメージは最先端の科学技術」との声が多く、つくばや科学技術への関心の高さを実感できました。

さらに、あんこう鍋など茨城ならではの食の味覚や、茨城空港、偕楽園など、これから注目の集まる本県の魅力について紹介すると、「九州の私たちには知らない魅力が、まだまだたくさんありそう」と、皆さん新たな茨城の魅力に興味津々の様子でした。

次回は最終目的地・沖縄の様子をお伝えします。お楽しみに。



福岡タワーのフータ君と、友達になりました

①県企画課
☎029(30)2523
☎029(30)2530